



## 本日はよくお参り下さいました

いよいよ師走となりました。今年も最後の月となりました。たくさん嬉しい事悲しいこと、悔しいことがあったと思います。腹を立てたこともあるでしょう。人によっては怒りが生きていくエネルギーになっている人もいます。それでも、原点は家族や親しい人たちの支えがあってこそです。「恩を受け、恩を恩ともおもうなら恩を報ずる心あるべし」という歌があります。人から恩をうけ、その恩を本当に感謝しているなら、その恩に報いるだけの心を持つべきである、という意味です。人は自分が自力で生きているように思いがちですが、実際は天地の恩、人の恩によって生かされているのが本当の姿です。自分を温かく抱きかかえてくれる周囲に対して常に感謝の念をもって、これに報いるだけの自分でいるだろうか。生かされて生きていることに改めて感謝したいと思います。新年が皆さまのもとにたくさん希望と幸福を運んできますように。権禰宜 道子



## 12月

**1日 月首祭** 月の初めの恒例祭祀。

**5日 酉の市** 久里浜天神社では毎年12月5日に酉の市を行います。この日から神社特製の熊手や来年の神棚のおふだをお求め頂けます。夜店も賑やかに出店します。(お昼ごろより夜9時頃迄)皆さまお誘い合わせの上お越しください。

**15日 月次祭** 月の半ばの恒例祭祀。

**23日 天長祭(天皇誕生日)** 今上陛下の御誕生日であり、国民の祝日です。天皇陛下の御誕生日は古くから天長節とよばれ、国民はこぞって慶祝の気持ちを表してきました。いまでもこの日には天長祭という神事のおまつりが、宮中や全国の神社で行われます。

14日は投票に行きましょう



**25日 終い天神(しまいてんじん)** 御祭神菅原道真公の誕生日6月25日、薨去(こうきょ)の2月25日に因み毎月25日は、天神さまの御縁日です。特に12月25日は、終い天神(1月25日は初天神)と呼ばれます。

おおはらえ

**31日 大祓** 12月31日の大晦日には、一年の間に受けた罪穢(つみけがれ)を祓うために、大晦日(おおつごもり)大祓が宮中ならびに全国の神社で執り行われます。

## 日本神話の世界 全十一回

### 第九回 「大國主神の國作り」

根の堅州国(かたすくに)に逃げてきた大穴牟遲(おおなむぢ)の神(大國主神)は須佐之男命の娘、須勢理比売(すせりひめ)と結婚します。須佐之男命から様々な試練を受けた大穴牟遲の神は、妻の教えてくれた知恵で次々に危機を切り抜けました▼そしてついに須佐之男命が安心して寝込んでしまったすきに、宝器を奪い、妻を背負って逃げ出します。須佐之男命に追われながらも、無事に国境を超えることができました。そこで、須佐之男命は、大穴牟遲の神に自分の持っていた宝器で国づくりをして「大國主神」となり「宇都志国玉神(うつしくにたまのかみ)」となり国を治めよと教え、娘を正妻にするよう宣言します▼そして、大國主神は言われたとおり、宝器の生太刀(いくたち)と生弓矢(いくゆみや)で、自分をいじめた大人数の兄弟である八十神を次々と追詰めて倒していき、初めて国を作りました▼ところで、大國主の神には八上比売(やみかみ)という妻がいましたが、須勢理比売に遠慮し自分の子を木の俣に挟んで美家に帰してしまいました。その後大國主神は須勢理比売の嫉妬を受けながらも、地方の権力者の娘である多くの女神と結婚し、領土を広げ、子孫を繁栄させました▼出雲の三保の岬にいらしたとき、海の彼方からガガイモの船に乗り、蛾の皮をまとった神がやってきました。名を尋ねても

答えないので、周囲の神たちに聞いても皆知りませんでした。するとヒキガエルが、(カカシのような姿の)「崩彦(クエビコ)」が知っているでしょうと言っているので、聞いてみると、神産巢日神(かみむすびのかみ)の御子、少名毘古那神(すくなびこなのかみ)だと言います。大國主の神が神産巢日神に伺うと、それは私の手の指の間から生まれた子である。兄弟となり共に国を作り堅めなさい、と仰せになりました▼これにより大國主神と少名毘古那神は共に国を築き上げました。その後少名毘古那神は常世国に行ってしまった。良き相棒を失った大國主の神は悲しみました。この時、海を照らしてやってくる神がありました。その神は「私をしつかりと祀るなら一緒に国を作ろう。そこでなければ国は成り立たないだろう」と仰せになりました。「ではどのようにお祀りすれば良いのでしょうか」とお尋ねになると、「私を大和の国の東の山の上(御諸山)：みもろやまに祀りなさい」とお答えになりました(そこは現在、大神神社となっています)▼こうして大國主神は葦原中津国を完成させ、国作りを終えました。大國主の完成させた葦原中国は、次回「国譲り」によって天照大御神に譲られることとなります。参考文献『神話のおへそ』神社本



庁監修 佛扶桑社発行  
／『現代語古事記』  
竹田恒泰 著 佛学研八  
ブリジング発行